

細谷小学校区はローカルミーム*がいっぱい

*LOCAL MEME®は、合同会社千一編集室の登録商標です。



今回の取材で協力していただいた高山さんと所さん、茂木さんと安達さんはそれぞれ幼馴染で小学校の同級生です。細谷小学校というコミュニティを通じた関係性が年齢を重ね卒業や結婚、就職、定年退職等を経ても変わらず残る一方で、ギャラリーや音楽教室や伝統行事など皆さんそれぞれ自分なりのやり方で地域コミュニティに参加しています。細谷小学校区には魅力あふれる文化や人が交わる地域コミュニティがあり、それらのコミュニティを支える人々をつないでいる細谷小学校は、まさに多世代の交流を生み出すコミュニティの核でした。

※ローカルミーム（文化的遺伝子）とは、人が住む場所に受け継がれてきた、その地域独自の風習や方言、文化のことです。（13号参照）

野生動物

自然豊かな細谷小学校区には狸をはじめ、ウサギやキジなどいろいろな野生動物が生息しています。なんと鹿が現れることもあります。



上台農村公園内にある上台釈迦堂に納められている釈迦如来像は、平安時代の天台宗の僧である慈覚大師円仁の作という言い伝えがあります。



釈迦堂

上台釈迦堂は、様々な行事や地元の人々の集合場所として利用されています。



学校

細谷小学校校舎に掲げられたスローガンは「本気で育てようやさしさとする気」です。



台地の畑

ごぼうの他にもいちごやニラ、にんじんなどが細谷小学校区で作られています。



みどRINGフェス ～小学校を通じた地域の人の輪～

日時 2022.10.29(土) **場所** 下野市立緑小学校 屋外(校門・駐車場付近～ピロティ~校庭)
主催 下野市立緑小学校PTA本部

緑小学校が開校し、令和5年(2023年)で28年が経ちます。当初500~600名在籍した児童数も現在は200数十名となりました。児童の減少や生活スタイルの変化に伴い、PTAの会員数や役員の担い手も減少し、組織や事業も変化しています。また、令和2年(2020年)以降コロナ禍も続き、子供たちが参加できる行事なども少なくなっていました。

そうしたなか、緑小学校PTA本部主催の「みどRINGフェス」が秋空の下で賑やかに開催されました。会場には、小・中学校PTA本部・南河内子ども会連合会・下野市商工会青年部によるゲームコーナーや、バレーや中学校吹奏楽部による演奏、地域のスポーツクラブ(野球・サッカー・ラクビー・キンボール)体験、社会科見学(警察署・自衛隊・消防署)、昔遊び体験(グリーンクラブ)、手作り品の販売、福祉学習体験(社会福祉協議会)、防災研修(下野市安全安心課・消防団)のコーナーなど年代を問わず楽しめる場が開設されていました。

児童全員に配布されたパンフレットに「緑小学校を通じて「みどRING・みどりの輪」が大きく広がることを願って企画しました」とあるとおり、緑小学校を拠点に小・中学校区(緑小学校・南河内第二中学校)の地域や下野市内外の各団体が参加したり、地元事業者の協賛なども得て、人のつながりによるみどりの輪が大きく広がっているようでした。



つながッテルね!
条例14条

(コミュニティ組織の責務及び支援)

第14条 コミュニティ組織(市民活動団体を含む。)は、適正な団体運営を行うとともに、自らの責任のもと、市民活動を推進し、その活動が広く市民に理解されるよう努めるものとする。